

B. 各支部から

群馬県支部の活動状況

群馬県小児保健会支部長
群馬大学大学院医学系研究科小児科学分野
荒川 浩一

群馬県小児保健会では、平成22年度より独自のホームページを立ち上げ、群馬県民に対して幅広く小児保健の重要性を訴えている。タイトルページには「すべての子どもたちに笑顔を」というキャッチコピーを掲げ、群馬県の基本政策のひとつである子育て支援策（図）などを幅広く実施し実現していくために、多職種の人たちと協力して、産みやすく育てやすい環境を整えることを目標に取り組んでいる。また、アレルギー疾患をはじめとした種々の疾患の危険因子である受動喫煙や能動喫煙から子どもたちを守る姿勢を掲げている。



図

ホームページに掲載した会長挨拶を下記に付記する。

会長挨拶：我が国における子どもの数（15歳未満）は昭和50年から35年連続減少し過去最低となっています。また、総人口に占める割合も昨年度13.4%で少子化傾向は年々深刻な状況に陥っています。このような状況は当分改善の兆しは期待できません。私たちは、現時点での数少ない貴重な子ども達を慈しみ、健やかに元気いっぱい育ててもらいたいと祈願し手助けをするのみです。しかし、残念なことに近年、子ども達をめぐる悲惨な事件が後を絶ちませんし、心の問題も増加しております。現政権がマニフェストに子育てや教育の充実を盛り込んだのも、このような社会情勢を

憂慮した結果からだと思います。子ども達は社会の貴重な宝物であり、いずれ群馬の、そして日本の未来を背負って行く人材ばかりなのです。

群馬県小児保健会は、そのような貴重な人材となる子ども達の心と身体の健康を維持し推進することを目的とし、子ども達が一層健康に成長しそして健全なる社会人の一人となれるように全力でお手伝いしていきたいと考えています。小児保健に携わる私たち一人一人が、それぞれの立場で子ども達のために力を尽くし、一致団結して取り組み少子化社会に大いに貢献できるように活発なる活動を持続していきたいと願っております。

このような啓発活動を群馬県健康福祉部保健予防課、群馬大学医学部附属病院小児科、群馬県医師会、群馬県歯科医師会、群馬県看護協会、群馬県助産師会、教育行政機関などが協力して行っている。特に、多職種が協力して行っていく必要がある予防接種事業、虐待児への対応、発達障害児の支援、重症心身障害児や肢体不自由児に対する総合的な対策などは、横断的に相互理解を深めて取り組むべく努力をしている。

群馬県の小児保健に関する情報の共有および施策の作成には常任理事会が行うが、常任理事は多職種から人選し、総会で討議すべき内容を吟味し確認している。また、県内で多大な功績を認めた個人ならびに団体に対して群馬小児保健賞の選考を行っている。会の運営にあたり財政面では、会場費や印刷費など無駄を削減し、また効率よく運営するために、一部業者に委託することにした。

年1回開催する群馬県小児保健研究集会の参加人数をさらに増やし益々活性化して情報を発信し、小児保健の重要性を強調していきたいと願っている。

群馬県小児保健会
〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1
群馬県保健福祉部保健予防課内